

～保護者の皆様へ～

<p style="text-align: center;">TEAM MINAMI 50</p> <p style="text-align: center;">菁 莪 育 才</p>	<p style="text-align: center;">第 4 2 号</p> <p style="text-align: center;">山梨県立甲府南高等学校 第 3 学年（文責：崎田） 平成 26 年 10 月 10 日発行</p>
---	---

☆ 「夢」を現実に叶える力を持って

保護者の方々は御存知だと思いますが、今の高校生は「花札」なんてものを知っているのでしょうか。日本の伝統的なカードゲームといっても良いと思いますが、昔はよく家族で遊びました。

この「花札」、48 枚の札で構成されているわけですが、…このうちの「雨」と通称される「柳」の 20 点札(右図)…これが平安時代中期の能書家小野道風の故事に基づく絵柄であることはよく知られています。

高校日本史のレベルで紹介しますと…。

小野道風は、平安時代前期に嵯峨天皇とその才能を競い合った小野篁の孫で、承平・天慶の乱の際に瀬戸内海で反乱を起こした藤原純友を討伐した小野好古の実弟です。道風自身は能書家として知られ、平安時代中期の「三蹟」の一人に数えられる人物です。

では「雨」の 20 点札に描かれた“小野道風の故事に基づく絵柄”とは…。それは、小野道風が書の才能に落胆し、自己嫌悪に陥っていた際のあるできごとがモチーフになっていると言われています。

“書道から身を引くことを真剣に悩んでいた小野道風が散歩をしていたある雨の日のこと…、道すがら、柳に飛びつこうとしている蛙を見つけた。何度も挑戦しては失敗している蛙の姿に、「蛙は愚かだ、いくら飛んでも柳に飛びつけるわけがないのに」と蔑んでいると、偶然にも強い風が吹いて柳の木が揺り、蛙は柳に飛びつくことに成功した。道風はこの瞬間を見て、「愚かなのは私だった。蛙は一つのことをやり続けて、偶然の風を自分の好機にした。私は何もしていない…」と覚醒し、書に対して血の滲むような努力をする決心をした。”

この話は、戦前の教科書にも掲載された有名な話で、戦中に小学校教育を受けた母が幼いころの私に教えてくれた覚えがあります。

小野道風は、生前から「王羲之の再来」と絶賛され、紫式部も『源氏物語』で、その書を「まばゆいほどに美しい」（意識してあります）と紹介しています。上述の逸話が史実か否かは定かではありませんが、その書を絶賛される小野道風にはおそらく、それに類する苦勞譚があったものと思われます。

一途に取り組む、…口で言うほど簡単なことではありませんが、何かを成し遂げるときの人間は得てして、「一途に取り組む」姿勢を持っています。但し、“何かを成し遂げる”のは、才能に恵まれている者だけに与えられている特権ではなく、むしろ「一途に取り組む」能力に長けている者の方が、その要素を持っているものだと感じます。

「精神一到何事か成らざらん」という言葉がありますが、…第 50 期生が、自らの意志に信念を持って、(その信念に責任を持って)臨んでくれることを期待しています。

心に描く“なりたい自分”になるために、

「夢」を現実に叶える力を持って!! と念じている今日このごろです。



☆ 職業人講話(回想)

9月19日(金)の5校時、平成23年度本校PTA会長の小林厚氏(山梨県知事政策局秘書課総括課長補佐)をお迎えして、職業人講話を開催しました。

演台に立たれた小林氏は「1時から2時は『魔の時間』と言われていています。昼食後、満腹になって腹が重くなる時間帯…、眠かったら寝ても良いですよ。でも話を聴きたい人もいると思うので、私語は慎んでください。」と温和な口調で、場の雰囲気のを和やかにし、要所要所でジョークを交えながら、「面接」をテーマにお話をしてくださいました。

「心(マインド)」と「表現するテクニック」の大切さ、そのベースとしての「知性」の必要性を示唆される中で、生徒2人を一組にして「なぜこの進路を選んだのか?、なぜこの進路を決めかねているのか?」について1分間考えさせた後、15秒ずつでお互いに説明させる機会をつくり、「15秒を超える話は冗長なイメージを与える。なぜなら15秒=CMの長さ=我々が身体で覚えた“簡潔な情報を仕入れる時間”」と紹介されました。更に、「短い時間で端的に話すべきことを話すには、**知性を磨くことが必要であり、芯を創ることが大切**」だとしながら、「**傾聴**」の姿勢を持つことを説かれました。

絵画や音楽の世界にも触れながら流れるようにお話をしてください、最後には「科学リテラシーの大切さ」も示唆されながら、開高健の「人間の一生の価値は二十五歳までの経験と思考が決定する」という言葉を紹介されたことは、今回の内容の深さを物語っています。

この講演内容は、単に「面接」の極意についての話ではなく、**人としての生きる姿勢を問うお話でした**。このことを、生徒一人一人がしっかりと胸に刻むべきであると考えます。

この記事の末尾ではありますが、講演をしていただいた小林元PTA会長に謝意を述べるとともに、生徒一人一人には、この機会を良い経験にしてほしいと念じるばかりです。

☆ 第52代生徒会役員認証式

10月2日(木)、第3回定期試験の全日程が終了した後、第52代生徒会役員認証式が行われ、本校生徒会の牽引役は第51代生徒会役員から無事、後輩に引き継がれました。

会長を務めてくれた長井碧さんは、校内における会長職とは別に、今年度開催された「南関東インターハイ」の開催県生徒準備委員会の副会長でもありました。また副会長の山田真宙くんは、本校の最大行事である緑陽祭の第50代実行委員長としても行事を成功に導いてくれました。議長の鶴見快くん・輿石彩華さんは、様々な意見が飛び交った生徒総会の切り盛り役を的確に行い、議事進行を真摯に務めてくれました。

本校創立50周年という節目の年に入学し、ことあるごとに「第50期生」という自覚を持って、**創立以来50年間の「まとめ」と新たな50年に向けての一步を踏み出す原動力となった3年生の第51代生徒会役員及び議長4名に賛辞を贈り、労いの言葉にしたい**と思います。お疲れ様でした。

甲府南高等学校生徒会役員及び議長引継状況

	第51代生徒会役員	第52代生徒会役員
会長	長井 碧(3-6)	鈴木 豪(2-1)
副会長	山田 真宙(3-3) 鈴木 豪(2-1)	新藤 秀登(2-4) 高橋 柚奈(1-3)
議長	鶴見 快(3-1) 輿石 彩華(3-4) 金子 真也(2-5)	秋山 慧斗(2-1) 中村 友哉(2-3) 向山 雄渡(1-5)

次回の学年通信(「菁莪育才」第43号)は、10月31日(金)に発行する予定です。